

2022年11月7日  
環境社会配慮助言委員会委員長 原嶋 洋平  
担当ワーキンググループ主査 寺原 譲治

アンゴラ国南部送電系統増強事業  
(協力準備調査(有償))  
ドラフトファイナルレポートに対する助言

**助言案検討の経緯**

ワーキンググループ会合

- ・日時：2022年10月31日(月) 13:58~17:45
- ・場所：オンラインおよび JICA 本部 (2階 229 会議室)
- ・ワーキンググループ委員：石田委員、柴田委員、寺原委員、錦澤委員、松本委員
- ・議題：アンゴラ国南部送電系統増強事業(協力準備調査(有償))に係るドラフトファイナルレポートについての助言案作成
- ・配付資料：
  - 1)【DFR】アンゴラ国南部送電系統増強事業(協力準備調査(有償)) DFR
  - 2)【ARAP 本文】アンゴラ国南部送電系統増強事業(協力準備調査(有償)) DFR
  - 3)【ARAP 添付資料】アンゴラ国南部送電系統増強事業(協力準備調査(有償)) DFR
  - 4)【ESIA 報告書本文 ENDE】アンゴラ国南部送電系統増強事業(協力準備調査(有償))
  - 5)【ESIA 添付資料 ENDE】アンゴラ国南部送電系統増強事業(協力準備調査(有償))
  - 6)【ESIA 報告書本文 RNT】アンゴラ国南部送電系統増強事業(協力準備調査(有償))
  - 7)【ESIA 添付資料 RNT】アンゴラ国南部送電系統増強事業(協力準備調査(有償))
  - 8)【助言対応表】アンゴラ国南部送電系統増強事業(協力準備調査(有償)) DFR
  - 9)【SC 時回答表】アンゴラ国南部送電線増強事業(協力準備調査(有償))
  - 10) 回答表
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第142回委員会)

- ・日時：2022年11月7日(月) 13:58~17:26
- ・場所：オンラインおよび JICA 本部 (2階 229 会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

## **助言**

### **全体事項**

1. 送電線ルート代替案の検討にあたっては、影響世帯数をはじめ、可能な範囲で定量的な比較を行ったうえで、選定基準を明確にし、FRに記載すること。
2. 攪乱という用語が DFR に多用されているが、それぞれの箇所具体的に意味することを明らかにし FR に記載すること。
3. コンポーネントの追加を行うに至った経緯と追加コンポーネントに関する代替案の分析を FR に記載すること。
4. 既設ルバンゴ変電所は使用を継続し、220kV への昇圧が構想されていることを FR に記載すること。

### **環境配慮**

5. バードストライクについての緩和策とモニタリングを FR に記載すること。
6. 将来的に本事業地の近傍あるいは事業地に重なる形で鳥類保護区と環境保全区が指定された場合、プロジェクトは原則として政府が法令等により自然保護や文化遺産保護のために特に指定した地域の外で実施されねばならないという JICA ガイドラインの方針を確認し、追加調査を実施することを相手国政府に求めること。

### **社会配慮**

7. 遊牧・放牧民など季節移動する人々の把握を含め、特定が難しく予測できなかった影響が及ぶ可能性については都度確認し、協議の場を設けるなどし、現場の状況に応じて補償や工事計画の見直しなども検討するよう実施機関に申し入れること。
8. 工事期間中に万一地雷・不発弾が発見された場合は、その除去作業に要する期間は契約上の工事期間に含まれない旨を FR に記載すること。
9. 緩和策の費用負担者について、FR では一貫性のある記載にすること。
10. アンゴラ国の地方農村部の多次元貧困状態にある世帯の割合が約 87% と高いことに鑑みて、鉄塔位置やルートが最終化される際にそれら世帯が被影響住民に含まれることが確認された場合には、生計回復支援を含めて適切に対応することを実施機関に申し入れること。
11. 補償内容の決定を伝統的リーダー（ソバ）による調整や関与を踏まえて行うにあたっては、当事者の意向が十分に反映されたものになっているか、ステークホルダー協議やコミューン政府担当者など多面的な観点から確認し進めることを実施機関に申し入れる

こと。

以 上